

目次

- 其一 第百三十六師團の編成
- 其二 日ソ開戦直前に於けるソ連軍の動向
- 其三 ソ連の動向に對する日本軍の判断並びに措置
日ソ開戦より併發する迄
- 其四 第百三十六師團戰鬥経過の大要
日ソ開戦より併發する迄
- 其五 平陽地区國境警備隊の戰鬥
- 其六 八面通地区國境警備隊の戰鬥
- 其七 自興屯附近殊置部隊の戰鬥
- 其八 牡丹江東方愛河附近の戰鬥
- 其九 教訓
- 其十 ソ連軍戰法の一端及ソ連兵の特質

其十 教訓

一、作戦上の要求に合する如く教育訓練を行ふを要す

從來關東軍は攻勢作戦に訓練の重点を指向しありしも大東亞戦争後遂に變化し殊に昭和三年度には於ては全く防衛作戦に転換せしに拘りて部隊の訓練は依然従来の慣習により實地せらる殊に連軍最近の傾向は標軍軍をねてする突破作戦なるに拘りて將校に於てすら是等の研究を怠りし有日ノ戦開始せらるるや部隊は全く混乱に陥り敵戦車に對し施す術なく果然自失の狀態たりしは不覚甚し

國家興亡の岐路ありし重大時局の軍隊として大

反者を要する所ヤリ

二訓練を経ざる老齡者を召集し之に有悪なる裝備
を以て戦斗せしめしに戦意全くなく徒らに戦利を腹
すもの多し是等兵員の増はは戦力の増強にあらず
一般の志氣を阻喪せしむる因をなせり

三戦局は將に國家の危期とも云ふ(予一昭和三十年五月頃
依然上級幹部にして家族を滿洲殊に國境地域
に招致せしが如く一般に精神の緊張を缺きしもの
多し從て開戦に當りては露意充ちとは云ひ難く

引リて軍隊の志氣に影響者也

四部隊の任務は編組は一に唐田面の敵情に慮して定む
るを要す

師團主力の自興屯陣地より前進に當り軍命令に依り
自興屯におき一隊を移後ノ北に30種の791高地にお
き一隊を陣遣せり

當時敵情は轉移途ハ西面方面若敵機甲部隊の
ヲ現出せり 從て791高地の一隊は全く遊兵と爲り
自興屯の一隊は敵機甲の現出時山頂に避難し
敵兵との現出後之と戦斗せり

西者英機甲部隊との戦いのため殊造せに拘らるる
 其目的に在りては、後には兵力令難に陥り且自軍の
 徒らに死せしむる者個撃破の好解を要せたり
 尚自軍の部隊に只謀然と師団の前進を掩蔽す
 ると命令せしむる腦力盡きて中射の大隊に射しては皆久
 日敷とせしむる敵機甲部隊の阻止とを的確に示し編組
 は因攻の訓練を継ぎて推進大隊及連射砲大隊の各
 一隊は必要に甲隊を加へたる日此隊とす。を可とせし
 命令起案をなす。参考の輕率なる知見を深く戒むる
 所あり

五犬牙錯綜せし戦況もまた在間客基に敵を離脱

せり

推河附近に於て軍はニヶ師団を以て北月水の陣を敷
 けり。然るに二日間戦遂第一保障地は敵に奪取
 せし戦線は彼我犬牙錯綜しあり斯の如き地形
 及情現に於て最も困難とせし退却の指導を
 比較的容易に實施し得たる原因は當面の敵は
 株甲軍を主体とせしものたりしに非ざる間、物価的
 威力に依存し在間客の防勢的態勢を以てし
 敵の兵は疑念多し其の威力が敵の軍団下を突破
 後退せしむるに却て敵退却し何れの戦線も在間客

撃を實施せしむるなりし為僅か牡丹江の二橋堡
 を初めし直向容易に後退するを得たり
 古退却は固より重要の金をを將校自ら傳達せり下
 兵を任用し居る部隊に傳達せり此が第一聯隊を
 犠牲にせり
 十五日直向退却は當り 2780 の予師団命令を受領せり
 當時命令受領者某其留七准は師団を漢口より
 本命令は將校自ら傳達すべしと指示せられたる
 聯隊本部附の軍曹が其長を本部に傳達せり
 此より直向退却は是間作の攻撃を受けし

ため本部信置を約千米競小なる高田米畑を交換
 せり傳令略被隊隊本部を氷むれとも 禁見し得
 す正に物不明とありや 斯く被隊するも不明なるは
 既以後退せしものなりと判断し 牡丹に右に後退せり
 本件を判断老名な条より下七官兵を借用し右に往に
 先と隊隊を被隊とせしものにして 右隊の幹部の軍服
 者更にして 任務の旨には 敵隊とせしものより 甚に被隊の
 然れせしものにして 誠に遺憾に堪へず

七所花の上畧材料を右利に借用するの著意は 右所分
 に七下の内攻に好適なる十五箇隊強を借用

せしめし例

八面通兵器廠に1500爆弾200箱あり林換進部隊は
其の一部の炸薬をぬけて使用せしむ大部を兵器庫
と云に爆薬を貯り

1500爆弾が11破壊のたぬ新集六百よことを認識
せしめしに甚固をもつに八面通及自衛先陣の戦
斗に之を便用せしむ僅少有炸薬に之を戦し後に
物資とあせしは跡に遺骸あり

八面通に於て通時通やなし教育を實施し成功せし例
輸重隊に之を編成せし内攻隊を以て1500爆弾に之

ソ連隊を完全に破壊せり

八月二十五日十時敵隊十五輛師団司令部に肉薄す
 當時司令部直前に配置せし輜重隊の伍長(幹徳忠身)
 以下五名各人十五箇銃弾一箇銃擧行敵先頭隊
 五輛に突入せり敵は何れの肉攻隊も大なる成果を
 挙げ得ざりし有緩速度を以て無型を以て前進せし際
 十五箇銃弾の完全弾発の爲め五輛若先を以て破
 壊せられたり他十輛は急ぎ手及転運却せり
 師団司令部は肉攻隊の成功を期したるは此が最期にして
 最も素直の悪き輜重隊の成功は一に隊長山森少
 佐が十五箇銃弾を擧行せり際、敵隊攻撃に

隊はほ煤弾を抱きたる俣突入し煤發直離工を
此は必ず海切すべしと教へたりし語日本にして
戰場に於て直隊内印有る指隊は如何に好果を
齎すかは二の初も是の明かりなり

ソ連輕軌車は對して煤薬少くも十三師中對車
に對しては十五師以上も使用せむれば完全に破壊
すべしと待す

ソ連將校の言

日本軍特攻隊が俄かTKの接近するやむつくり起き上り
煤薬と共にTKに突入し自煤する状態はソ連人の到着
實行し得ざるもにて直に至極せしき國威はありと

其工ソ連軍戦場一端及ソ連兵の特質

ソ連機甲軍の戦法

綏芬河―牡丹江道に副る地区を前進せし機甲軍團の

突破に要せし日数七日にて此の間国境線、穆稜の線

拖力の線等日本軍の真剣な抵抗に遭ひしに拘り一日

平均四十軒の突破を遂行せり

本機甲軍團の突破目標は最初牡丹江(約三〇〇軒)

りし此の特は牡丹江渡河の多数の渡河材料

を携行しあり

2、航空隊と機甲部隊との直接の協同戦斗と

見よべきものなく當時の飛行隊は我カ牡丹江附近

の兵站施設は攻撃の重点を指向しあるが如く
牡丹江の兵站施設は爆撃の爲徹底的に破壊せ
らるる

3. 樺甲軍戦法の二三の例

(1) 我軍陣地突破に際しては其砲兵威力を徹底的に
利用せり

四道省の外と一中隊の陣地に對し砲六門連続四時
間集中射撃も宜き施せり其の速度は百間20発
弾数は五千発あり 從て山顶には我軍兵の存在を
許さざりし

又慶河附近 我軍砲兵24門戦車四輛破壊り

為砲石門以上連続八時間一分間約30発總彈
 數一万發以上を使用せり從て我カ砲兵は一門を殲し
 全部破壊 戰車白輜も行動不能と成り

(四) 戰車の使用に當るとは對戰車火砲を徹底的
 に横撃したる後或は砲兵の威力の及ぶ方面に
 肉攻部隊の配置なす方面を即選定す

八月十日四道峯北方標高391高地凸角部攻撃
 に際して敵は我砲兵に目撃射撃を任意施し其
 時機を利用 戰車七輛を以て該高地を占領す
 又八月十日貨物倉南方高地攻撃の際敵は
 我カ砲兵24門を横撃したる後 戰車^{30輛}を該方面

に行動せしめ、管村陣地を我が肉攻部隊の配
置せし方面に於て戦車を使用せしむ

敵戦車の攻撃目標は我が重出隊の機銃
を主としたるも、最後は陣地を我が機銃に

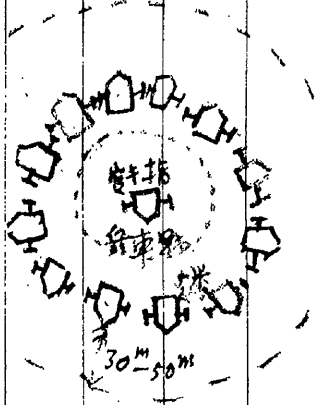
狙撃し、以て敵歩兵の前進を容易ならしむ
一般に我が部隊は実力弱く、我軍との白兵

陣地に於ては、守り易きを確保すべし、
我陣地の突入を要せしむ

（）夜間敵戦車は我が肉攻攻撃隊を極度
に警戒し、左記隊形を以て夜を徹す

陸軍

一中隊を單位とし円形に陣を構へり 30m 前方に據密に警戒兵を配置す



各隊車は間隔五米 指揮官

銃車は中央に位置す

銃車兵の前には銃車後方

に警戒兵を

各隊車は同一者の射撃兵を配置す

各師団以下の部隊は強し其帯隊を布せり従つて隊長

自ら命令を起すよし又下達す

命令は指揮官の同意を示さず各部隊毎に其任務を示し

他部隊の行動等には命令を

葉 裏

(一) ソ連兵の特質

(1) 女兵を多数使用す

特に多きは戦車兵、通信兵、衛生兵、等

一般部隊の女兵の数は概ねその内外なるものあり

(2) 衣食住共に簡陋なり従て行李の携行は尚も

日本軍に比し僅少なり

(3) 軍紀は厳正ならず殊に掠奪、強姦等の行

為多し物徳は特に旺盛なり

(4) 任務は兵面目に遂行すも任務外の事項は

一際関知するをなし

ソ連憲法に「任務超過の罪」を定めらる所以

